

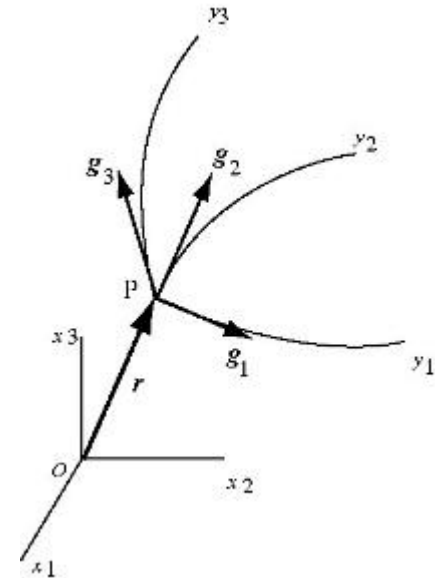
# ベクトルとテンソルの基礎

- 連続体力学の計算では、ベクトル(vector)とテンソル(tensor)を多用する.
- ベクトル(vector)とテンソル(tensor)は連続体力学に関する表記をするための言語である.
- はじめに、ベクトルとテンソルの基礎を学ぶ.

- 連続体力学では、ベクトル (Vector) とテンソル (Tensor) を利用して様々な基礎方程式を記述する。
- この授業では「直交デカルト座標系」場合だけ取り上げる
  - ・ 一般曲線座標系は取り上げない

## 添え字付き表示と総和規約 (1)

- 直交デカルト座標系 ( $O-x_1, x_2, x_3$ ) の  $x_1, x_2, x_3$  方向の単位ベクトルを  $e_1, e_2, e_3$  と書く
- $e_1, e_2, e_3$  を基本ベクトルと呼ぶ、または基本ベクトル (Base vector, basis vector)



一般曲線座標系

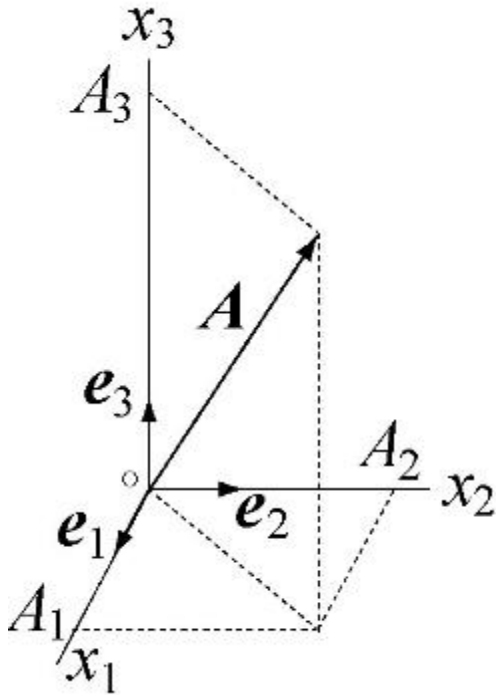
## 添え字付き表示と総和規約(2)

### ベクトルの書き方

- ✓ 印刷物やワードプロセッサでは“太字”  
(Bold face、ボールド)

$$\mathbf{A}, \mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2, \mathbf{e}_3, \mathbf{x}, \mathbf{v}$$

- ✓ 手書きの時は、(板書)、下にティルダ、二重線にするなどする。本講義ではティルダを使用する



直交デカルト座標系  
で表したベクトルの例

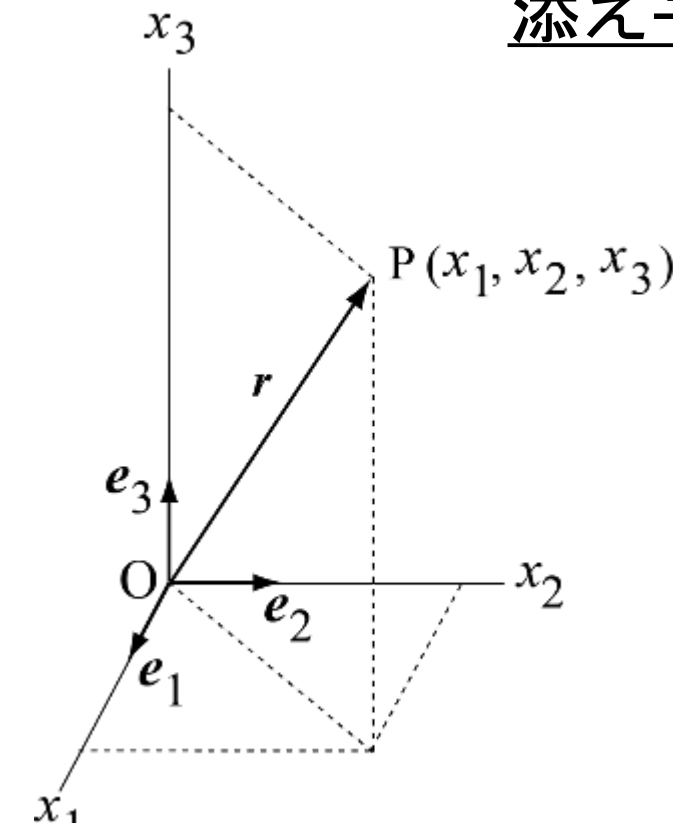
# 添え字付き表示と総和規約(3)

## ベクトルの書き方

- ✓ 印刷物やワードプロセッサでは“太字” (Bold face、ボールド)

**$A, e_1, e_2, e_3, x, v$**

- ✓ 手書きの時は、(板書)、下にティルダ、二重線にするなどする。本講義ではティルダを使用する



直交デカルト座標系で表した位置ベクトルの例

ある点  $P(x_1, x_2, x_3)$  を表すベクトル  $r$  を点Pの位置ベクトルという

$$\mathbf{r} = x_1 \mathbf{e}_1 + x_2 \mathbf{e}_2 + x_3 \mathbf{e}_3$$

$(x_1, x_2, x_3)$ を位置ベクトルの**成分**という

## 添え字付き表示と総和規約(3)

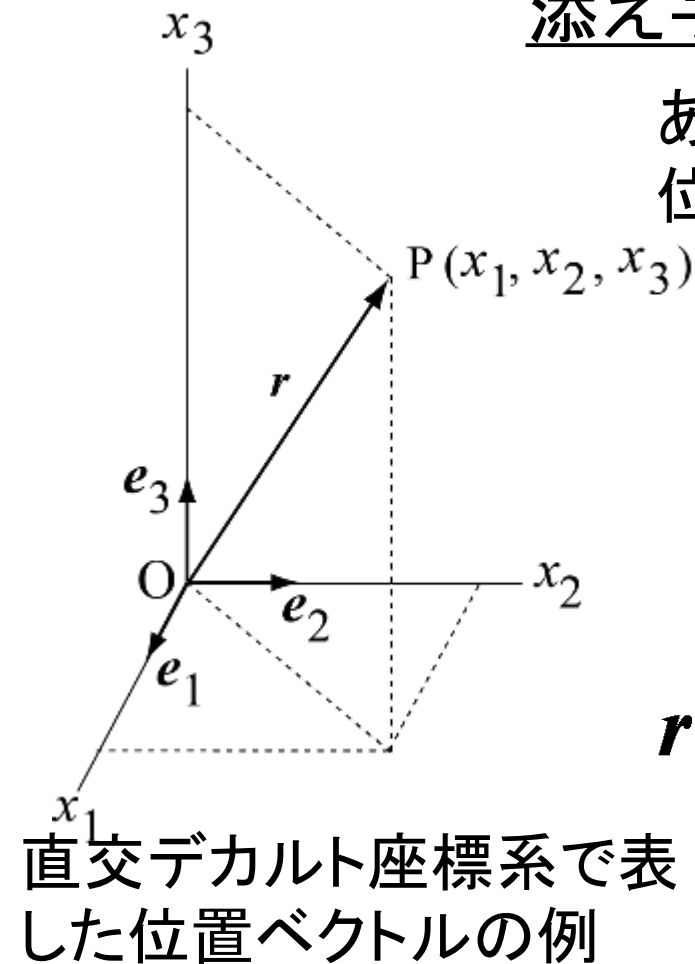
ある点  $P(x_1, x_2, x_3)$  を表すベクトル  $r$  を点Pの位置ベクトルという

$$\mathbf{r} = x_1 \mathbf{e}_1 + x_2 \mathbf{e}_2 + x_3 \mathbf{e}_3$$

$x_i$  ( $i=1,2$  or  $3$ )、すなわち、 $x_1$ 、 $x_2$  又は  $x_3$  を表す

$$\mathbf{r} = x_1 \mathbf{e}_1 + x_2 \mathbf{e}_2 + x_3 \mathbf{e}_3 = \sum_{i=1}^3 x_i \mathbf{e}_i = \boxed{x_i \mathbf{e}_i}$$

総和規約



## 添え字付き表示と総和規約(4)

$$\mathbf{r} = x_1 \mathbf{e}_1 + x_2 \mathbf{e}_2 + x_3 \mathbf{e}_3 = \sum_{i=1}^3 x_i \mathbf{e}_i = x_i \mathbf{e}_i$$

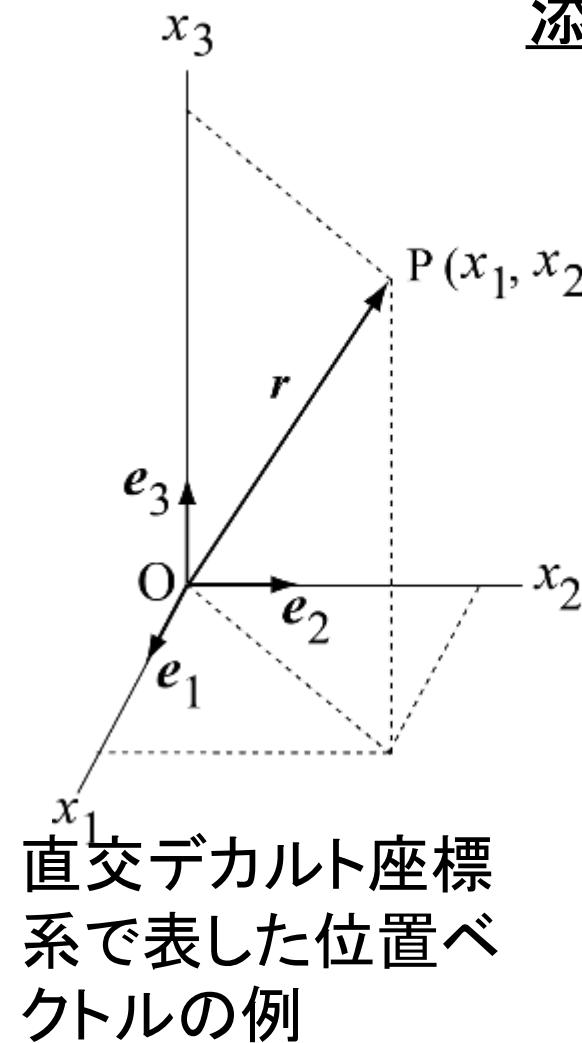
総和規約(Summation convention, summation rule)

一つの項の中で同じ指標が2回現れるとき: 総和1~3を行う(三次元問題)

総和を行う指標: 擬標(dummy index, ダミーインデックス)

擬表の記号は何でも同じ結果となる

$$\mathbf{r} = x_i \mathbf{e}_i = x_j \mathbf{e}_j = x_k \mathbf{e}_k = x_l \mathbf{e}_l = \cdots$$



## 添え字付き表示と総和規約(4)

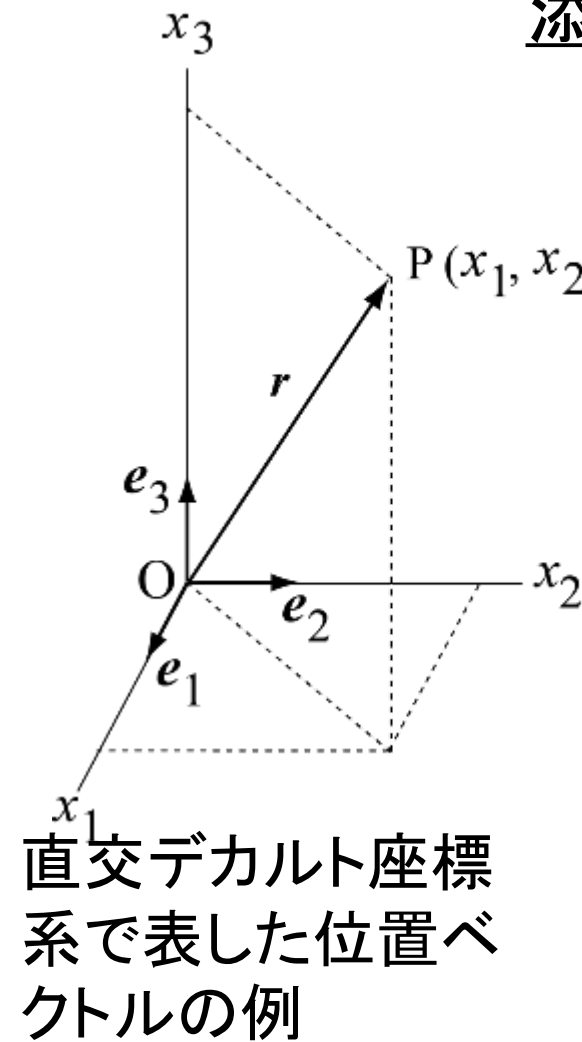
$$\mathbf{r} = x_1 \mathbf{e}_1 + x_2 \mathbf{e}_2 + x_3 \mathbf{e}_3 = \sum_{i=1}^3 x_i \mathbf{e}_i = x_i \mathbf{e}_i$$

**総和規約(Summation convention, summation rule)**

一つの項の中で同じ指標が1回だけ現れるとき: 総和は行わない(1, 2 又は 3 とする)

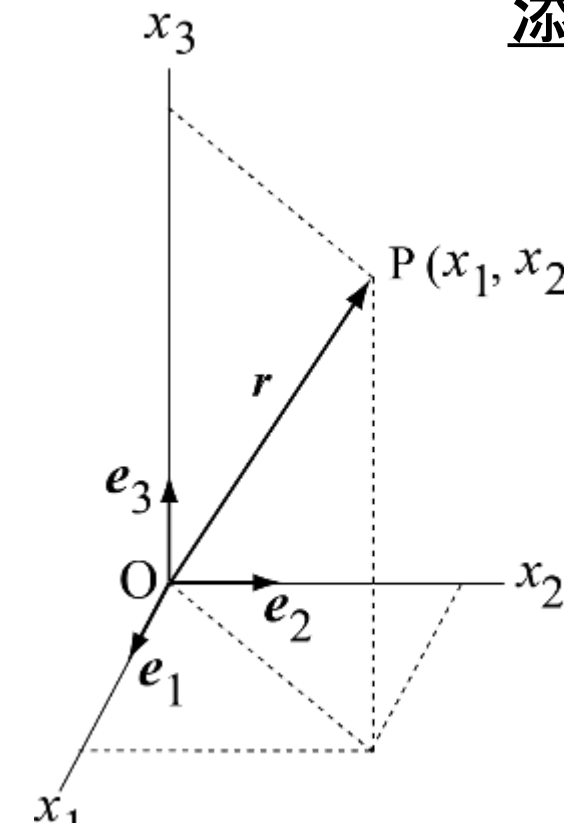
総和を行わない指標: 自由指標(free index、フリーインデックス)

一般に、 $x_i \neq x_j \neq x_k \neq x_l \neq \dots$  に注意



## 添え字付き表示と総和規約(5)

$$\mathbf{r} = x_1 \mathbf{e}_1 + x_2 \mathbf{e}_2 + x_3 \mathbf{e}_3 = \sum_{i=1}^3 x_i \mathbf{e}_i = x_i \mathbf{e}_i$$



**総和規約(Summation convention, summation rule)**

一つの項の中で同じ指標が3回以上現れるとき: 意味が定義されない

一般に使用しない。どうしても使用する場合、その意味をその都度定義する。

例:  $U_i = x_i y_i \mathbf{e}_i$  (No sum on  $i$ )  
( $i$ に対して総和を行わない、 $i=1, 2$  又は  $3$ )



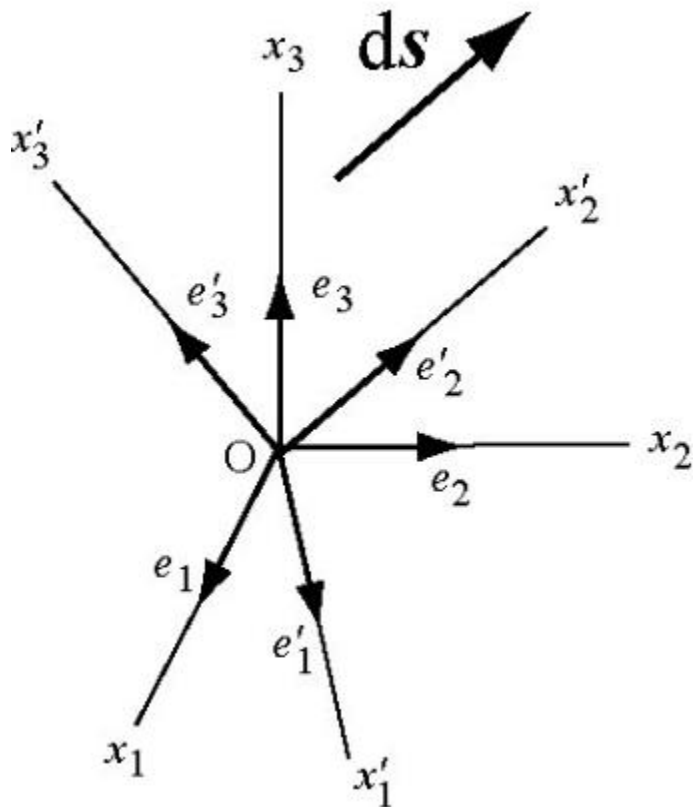
# ベクトルとテンソルの基礎的事項

## ベクトルの座標変換

微小長さを持つベクトル  $ds$

$$ds = dx_i e_i$$

$$ds = dx'_i e'_i$$



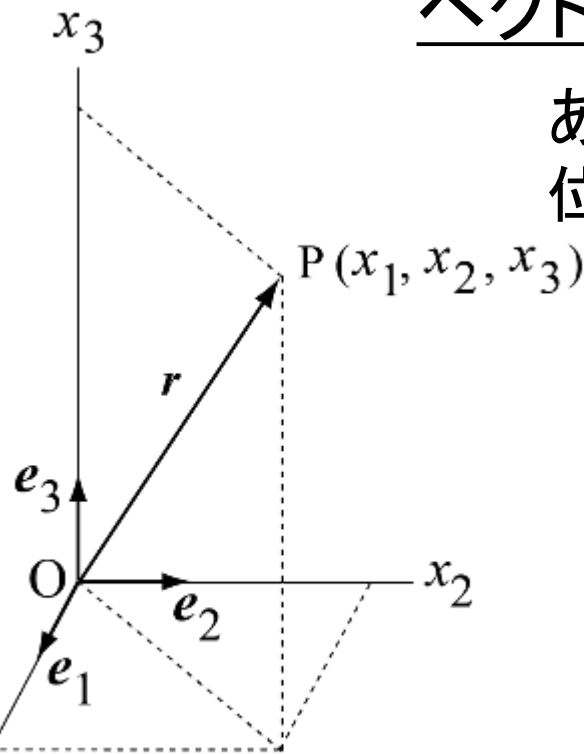
# ベクトルの座標変換

ある点  $P(x_1, x_2, x_3)$  を表すベクトル  $r$  を点Pの位置ベクトルという

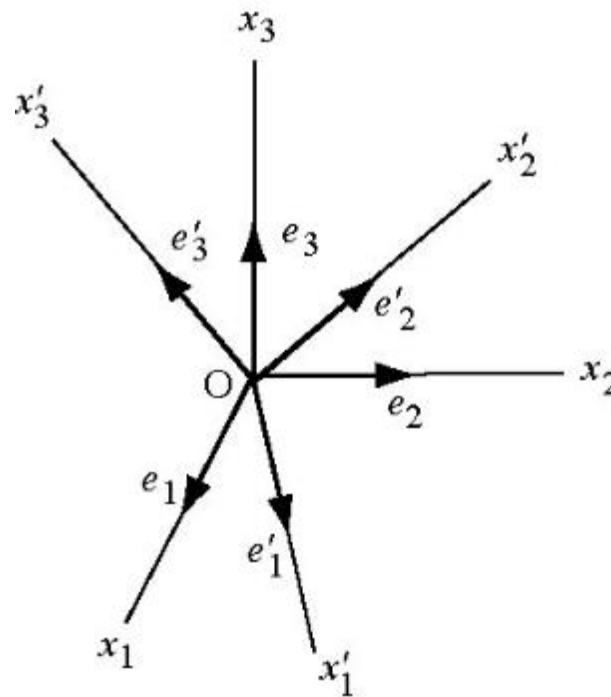
$$\mathbf{r} = x_i \mathbf{e}_i$$

座標系では

$$\mathbf{r} = x'_i \mathbf{e}'_i$$



直交デカルト座標系で表した位置ベクトルの例



すなわち: 
$$\mathbf{r} = x_i \mathbf{e}_i = x'_i \mathbf{e}'_i$$

# ベクトルとテンソルの基礎的事項

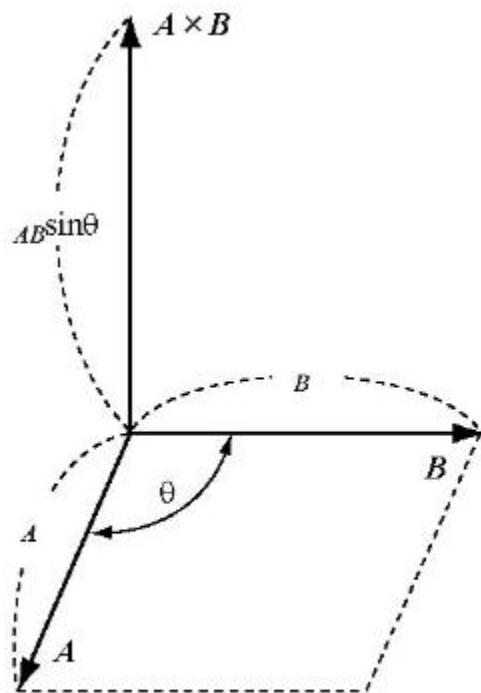


図5 ベクトルの外積

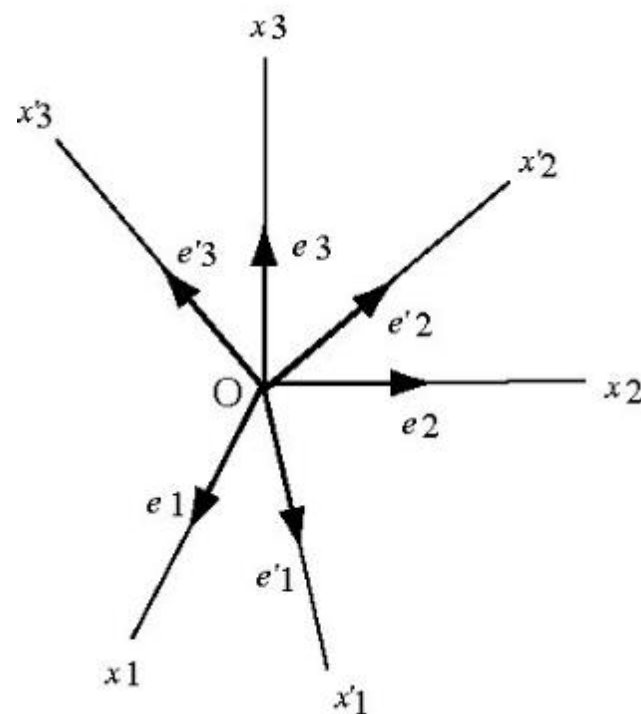
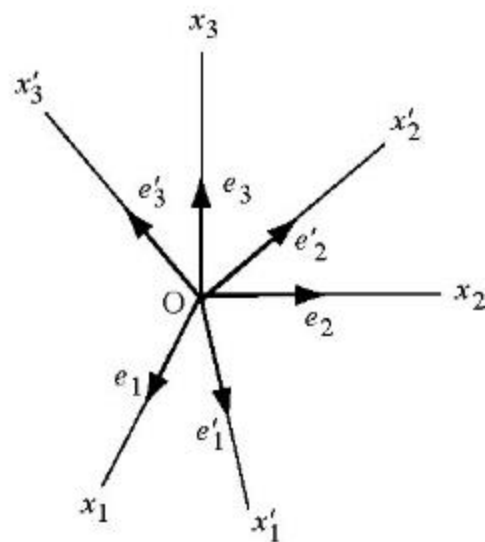
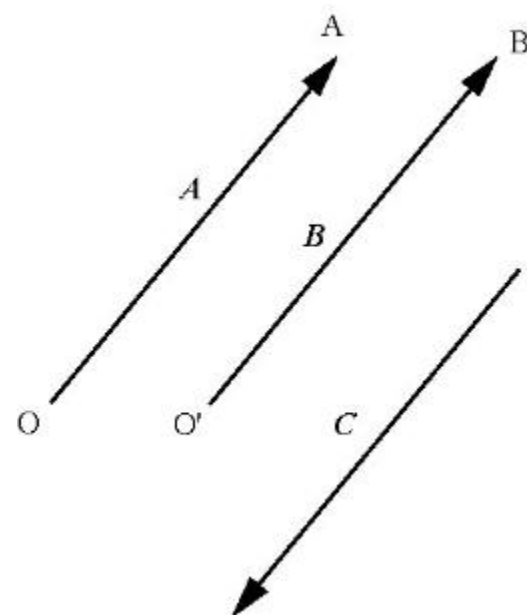


図6 座標変換

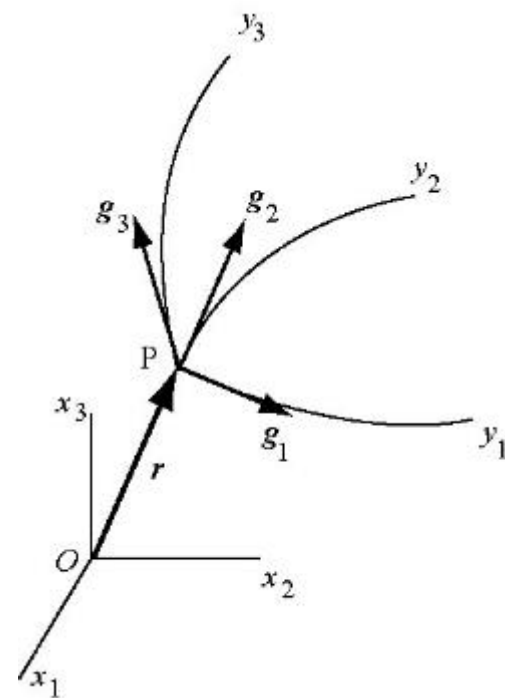
# ベクトルとテンソルの基礎的事項



$O-x_1, x_2, x_3$  座標系と  $O-x'_1, x'_2, x'_3$



一般座標系



テンソル 
$$\mathbf{A} = A_{ijk \cdots n} \mathbf{e}_i \mathbf{e}_j \mathbf{e}_k \cdots \mathbf{e}_n$$

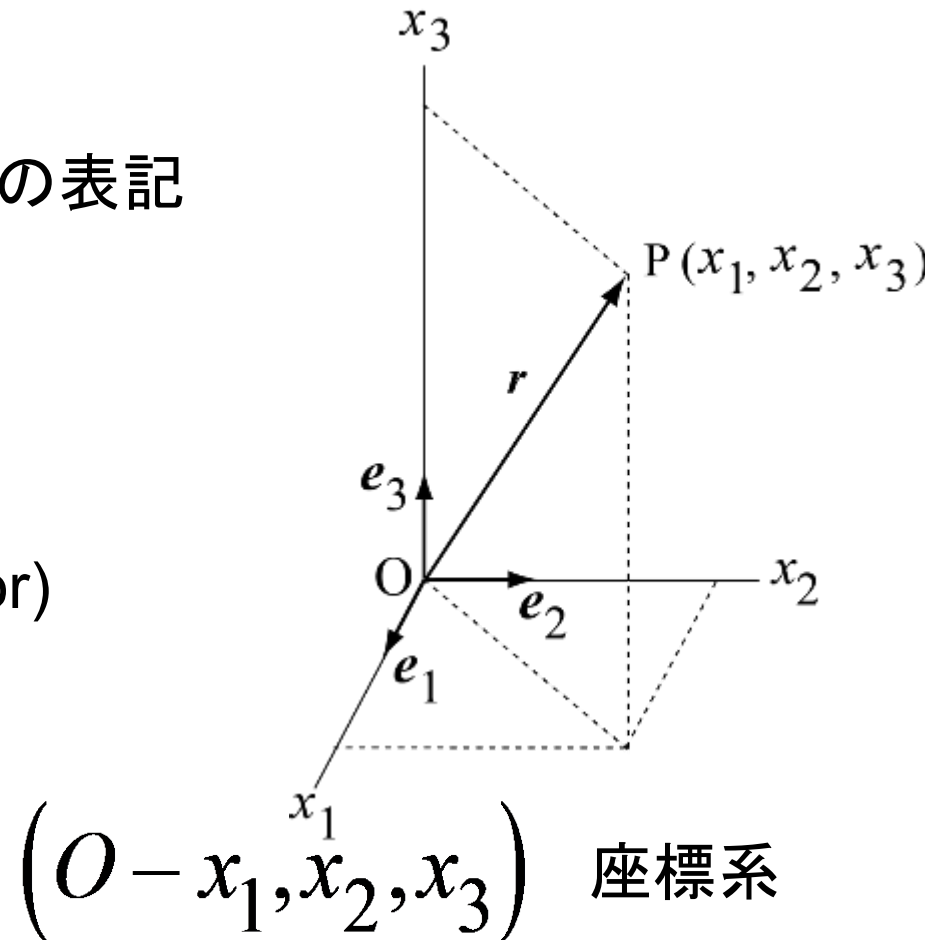
n 階のテンソル (n-th order tensor)

このような表記をテンソルのダイヤデックス表示 (Dyadic expression) という

ただし、 $(O - x_1, x_2, x_3)$  座標系の表記

ベクトル: 
$$\mathbf{a} = a_i \mathbf{e}_i$$

はテンソルの特別な場合  
1階のテンソル (First Order Tensor)



## テンソルの主値と不変量

2階のテンソル  $A = A_{ij} \mathbf{e}_i \mathbf{e}_j$  とベクトル  $\mathbf{b} = b_i \mathbf{e}_i$   
さらにスカラ  $a$  に対して、式：

$$A \cdot \mathbf{b} = ab$$

を満足するとき

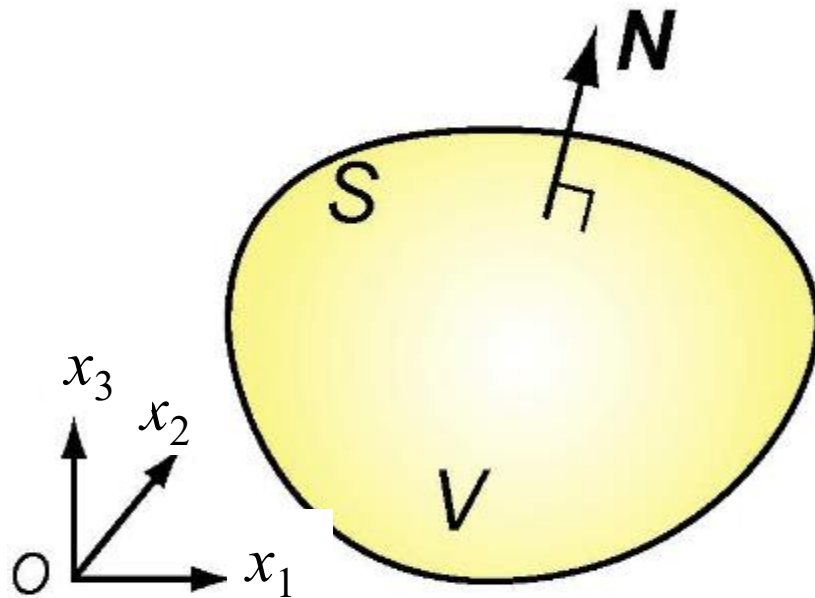
スカラ  $a$  をテンソル  $A$  の固有値または主値  
(Eigen value, principal value)

ベクトル  $\mathbf{b}$  をテンソル  $A$  の固有ベクトルという  
(Eigen vector)

$$A \cdot \mathbf{b} - ab = \cdots = \left( A_{ij} - a \delta_{ij} \right) b_j \mathbf{e}_i$$

# ガウスの発散定理 (Gauss divergence theorem)

面積分 $\Leftrightarrow$ 体積積分 の変換を行う



$V$  : volume

$S$  : surface

$\boldsymbol{v}$  をベクトル関数  $\boldsymbol{v} = \boldsymbol{v}(x_1, x_2, x_3)$  として

$$\boldsymbol{v} = v_1 \boldsymbol{e}_1 + v_2 \boldsymbol{e}_2 + v_3 \boldsymbol{e}_3$$

$$\iiint_V \frac{\partial v_1}{\partial x_1} dV = \iint_S N_1 v_1 dS$$

$$\iiint_V \frac{\partial v_2}{\partial x_2} dV = \iint_S N_2 v_2 dS$$

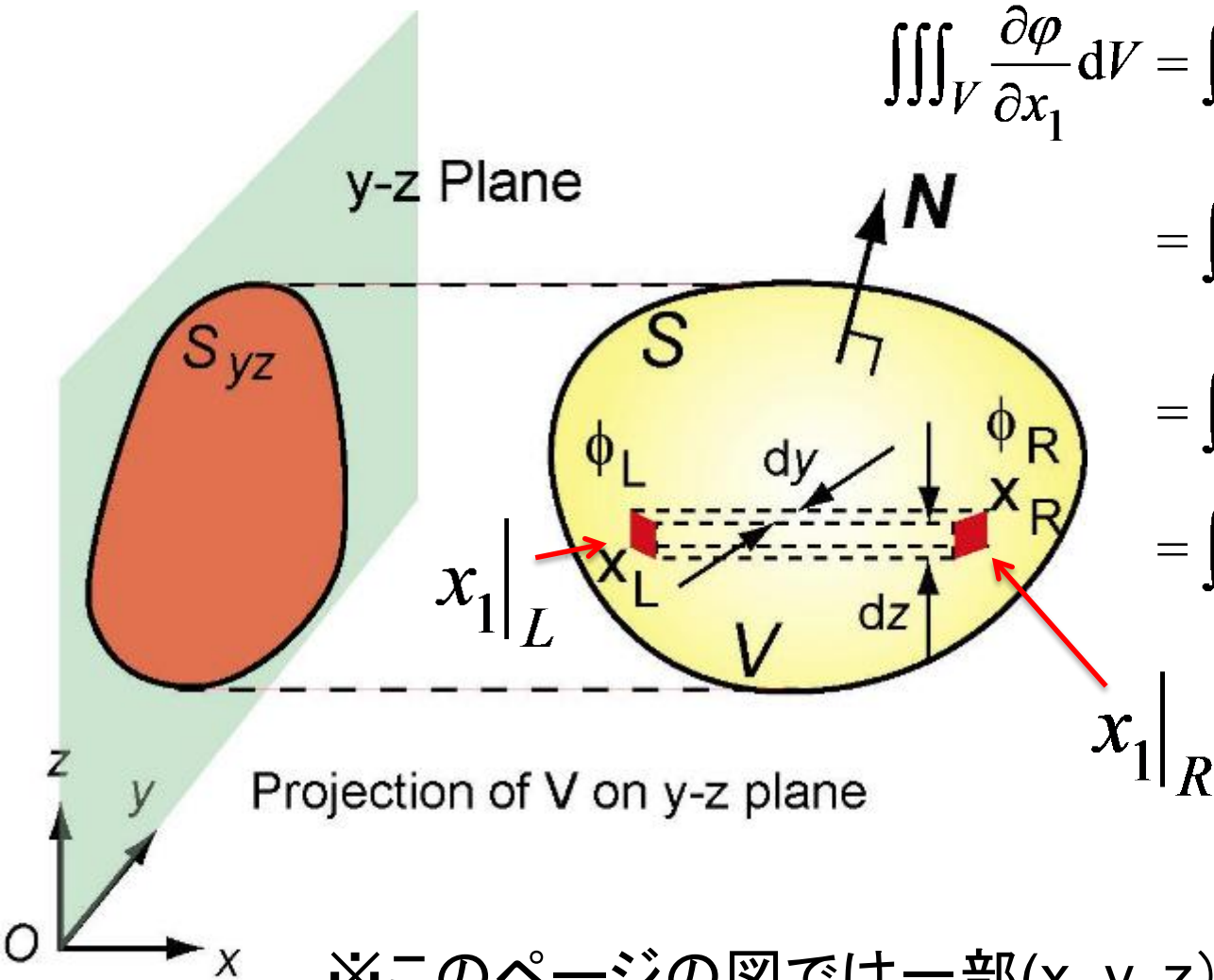
$$\iiint_V \frac{\partial v_3}{\partial x_3} dV = \iint_S N_3 v_3 dS$$

すなわち、

$$\iiint_V \nabla \cdot \boldsymbol{v} dV = \iint_S \boldsymbol{N} \cdot \boldsymbol{v} dS$$

# ガウスの発散定理 (Gauss divergence theorem)

証明)  $\iiint_V \frac{\partial \phi}{\partial x_1} dV = \iint_S N_1 \phi dS$  を証明する



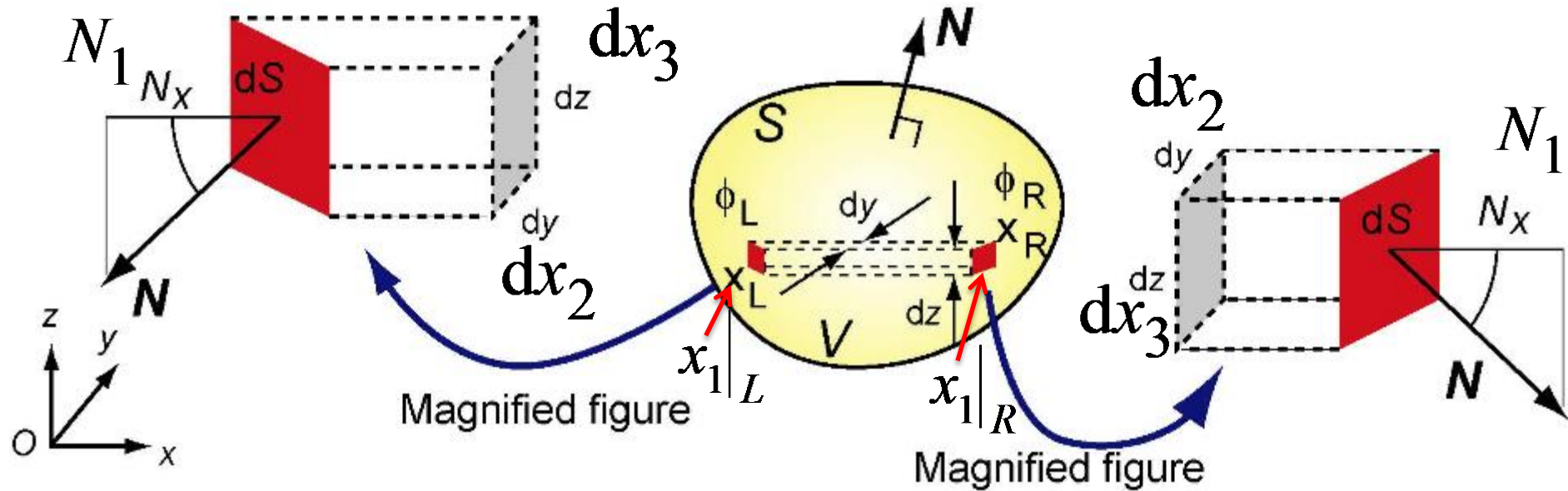
$$\begin{aligned} \iiint_V \frac{\partial \phi}{\partial x_1} dV &= \iiint_V \frac{\partial \phi}{\partial x_1} dx_1 dx_2 dx_3 \\ &= \iint_{S_{yz}} \left( \int_{x_1|_L}^{x_1|_R} \frac{\partial \phi}{\partial x_1} dx_1 \right) dx_2 dx_3 \\ &= \iint_{S_{yz}} \left[ \phi \right]_{x_1|_L}^{x_1|_R} dx_2 dx_3 \\ &= \iint_{S_{yz}} (\phi_R - \phi_L) dx_2 dx_3 \end{aligned}$$

※このページの図では一部  $(x, y, z)$  座標系を使用した



# ガウスの発散定理 (Gauss divergence theorem)

証明)  $\iiint_V \frac{\partial \phi}{\partial x_1} dV = \iint_S N_1 \phi dS$  を証明する



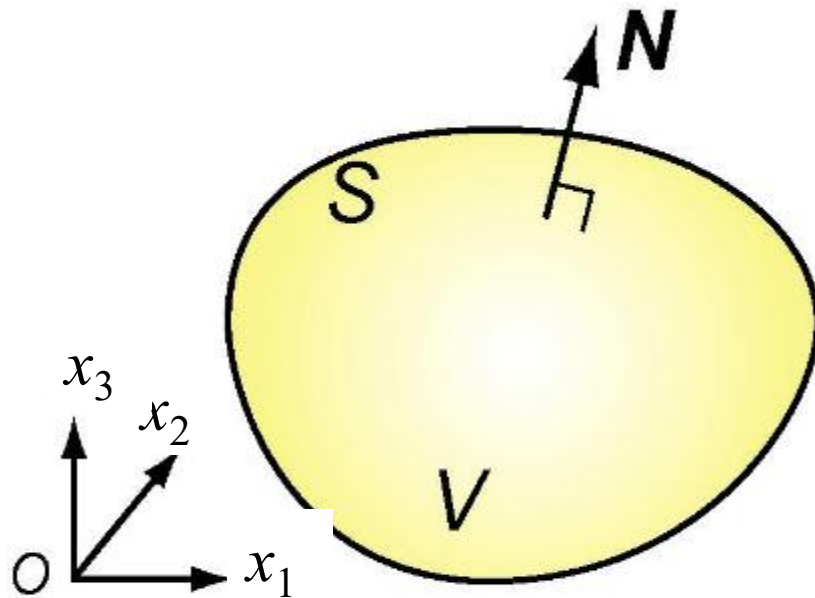
$$x_1|_L \text{ では、 } dx_2 dx_3 = -N_1 dS \quad x_1|_R \text{ では、 } dx_2 dx_3 = N_1 dS$$

$$\iiint_V \frac{\partial \phi}{\partial x_1} dV = \iint_{S_{yz}} (\phi_R - \phi_L) dx_2 dx_3 = \iint_{S_R} N_1 \phi dS_R + \iint_{S_L} N_1 \phi dS_L = \iint_S N_1 \phi dS$$

※このページの図では一部(x, y, z)座標系を使用した

# ガウスの発散定理 (Gauss divergence theorem)

面積分 $\Leftrightarrow$ 体積積分 の変換を行う



$V$  : volume

$S$  : surface

$\mathbf{v}$  をベクトル関数  $\mathbf{v} = \mathbf{v}(x_1, x_2, x_3)$  として

$$\mathbf{v} = v_1 \mathbf{e}_1 + v_2 \mathbf{e}_2 + v_3 \mathbf{e}_3$$

$$\iiint_V \frac{\partial v_1}{\partial x_1} dV = \iint_S N_1 v_1 dS$$

$$\iiint_V \frac{\partial v_2}{\partial x_2} dV = \iint_S N_2 v_2 dS$$

$$\iiint_V \frac{\partial v_3}{\partial x_3} dV = \iint_S N_3 v_3 dS$$

すなわち、

$$\iiint_V \nabla \cdot \mathbf{v} dV = \iint_S \mathbf{N} \cdot \mathbf{v} dS$$

# ベクトルとテンソルの基礎的事項

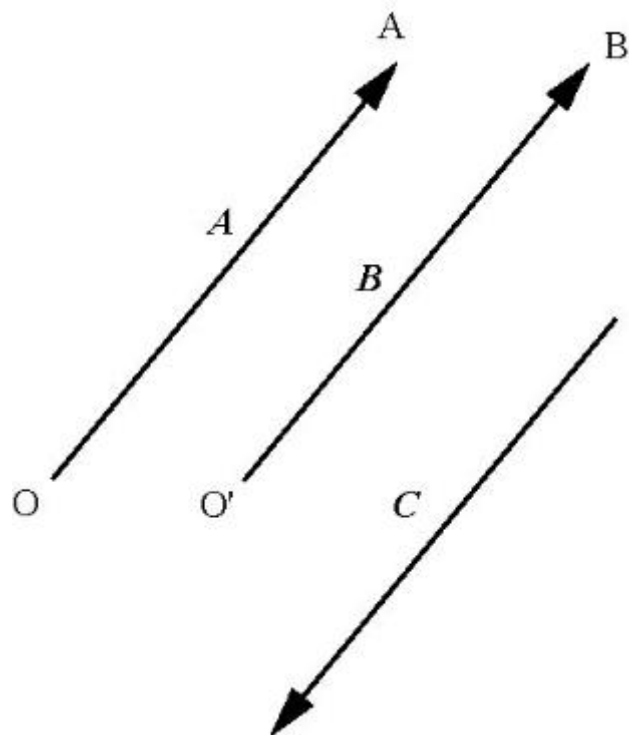


図1 ベクトルの表示

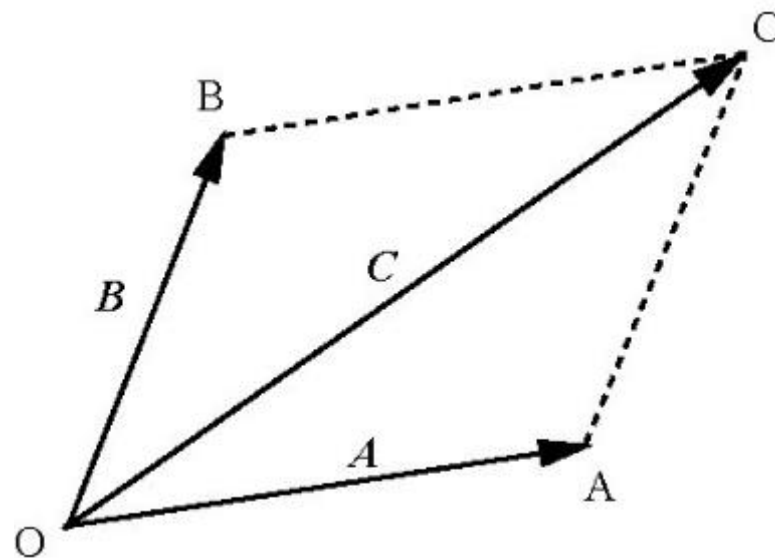
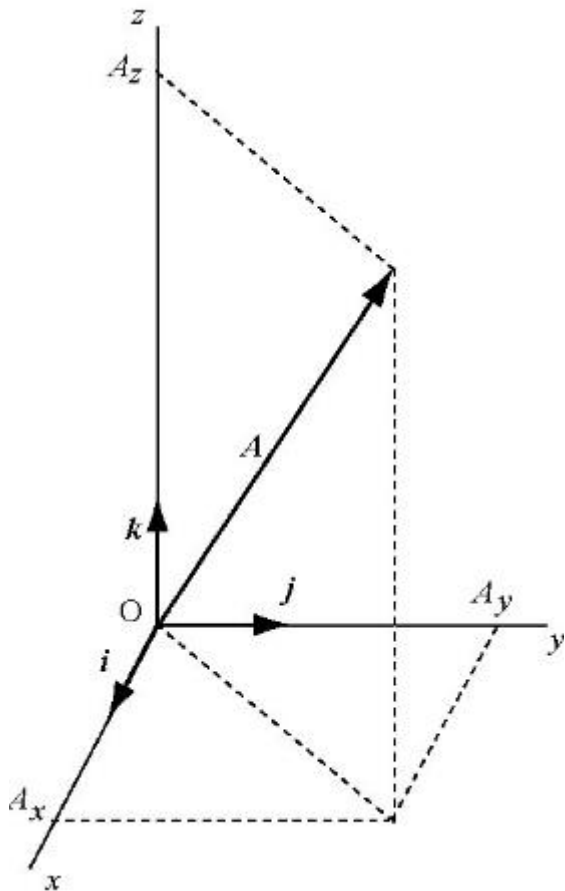
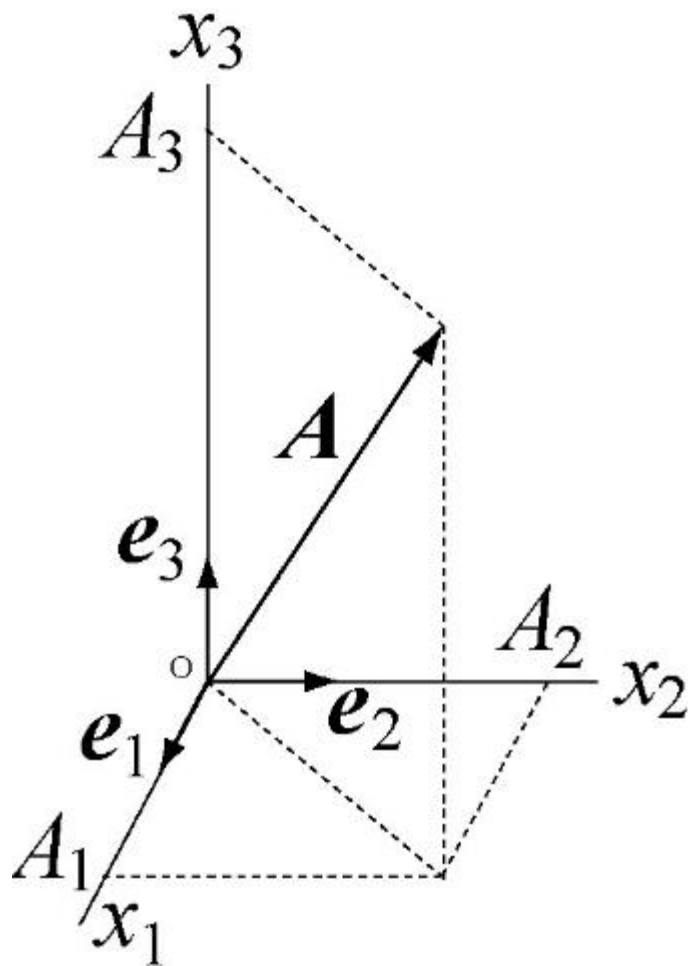


図2 ベクトルの加法

## ベクトルとテンソル：ベクトルの成分



$$\mathbf{A} = A_x \mathbf{i} + A_y \mathbf{j} + A_z \mathbf{k}$$



$$\begin{aligned} \mathbf{A} &= A_1 \mathbf{e}_1 + A_2 \mathbf{e}_2 + A_3 \mathbf{e}_3 \\ &= A_i \mathbf{e}_i \quad \text{総和規約} \end{aligned}$$

## 本題の前に:ベクトルとテンソルの基礎的事項

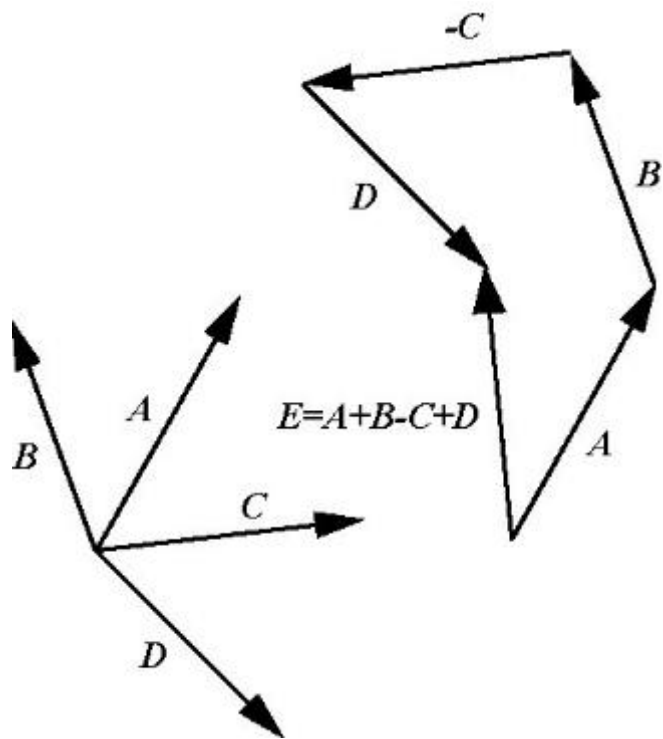


図3 ベクトルの合成

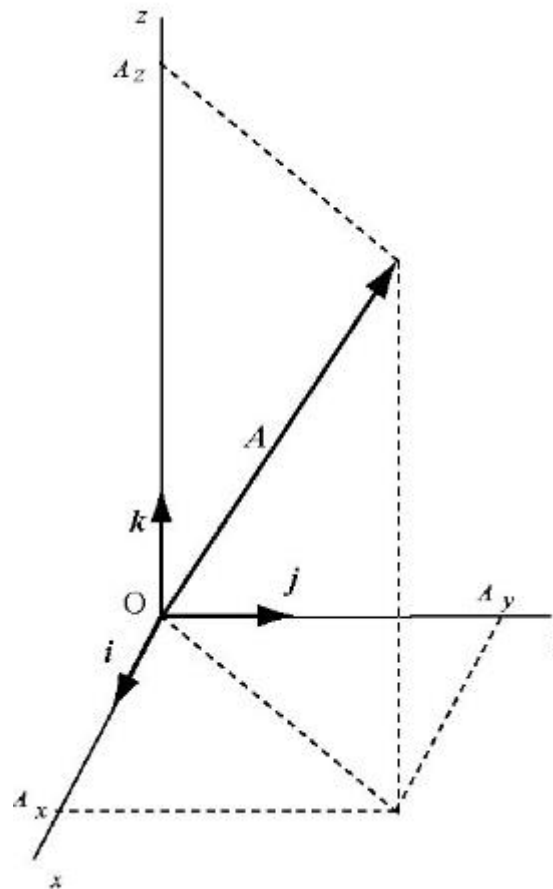


図4 ベクトルの成分

## 本題の前に:ベクトルとテンソルの基礎的事項

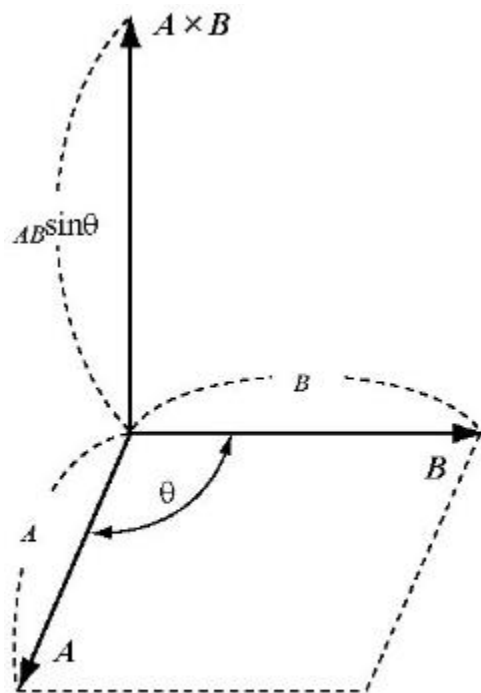


図5 ベクトルの外積

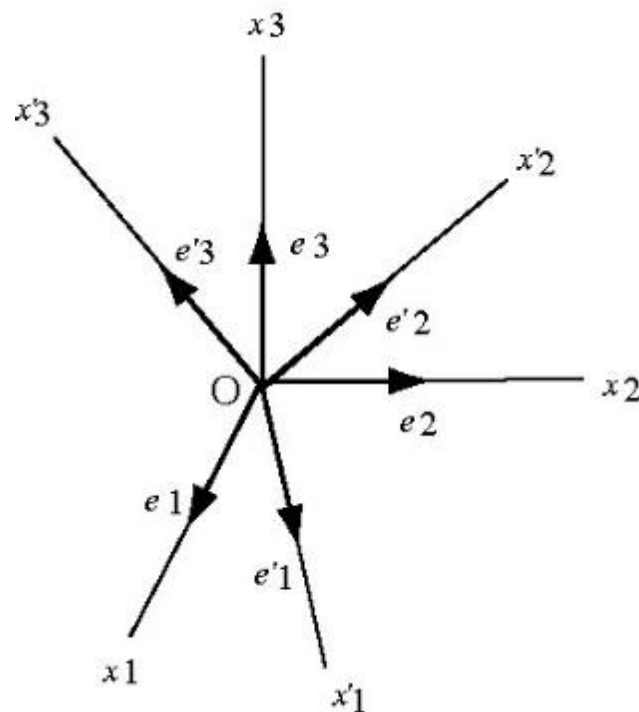


図6 座標変換

## 本題の前に:ベクトルとテンソルの基礎的事項

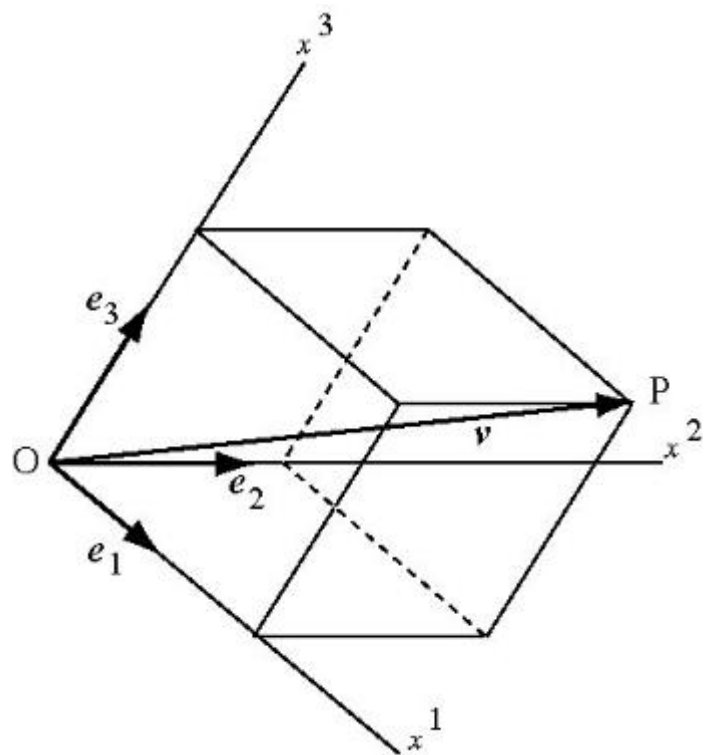


図7 斜交座標系

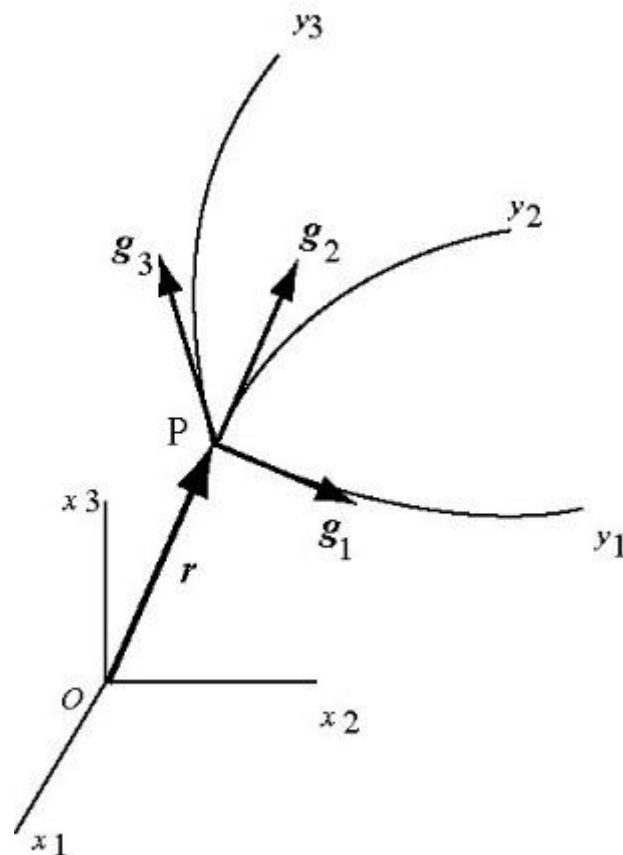
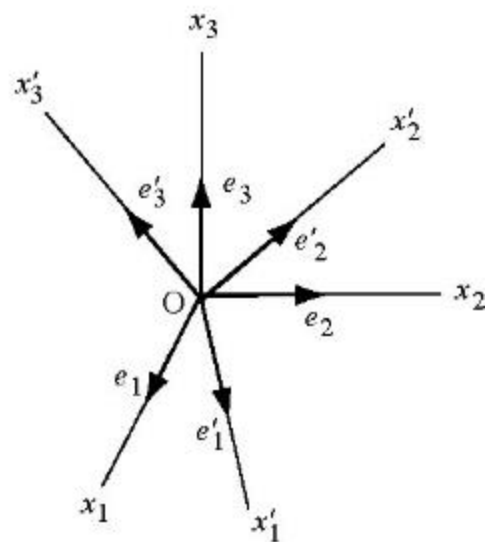
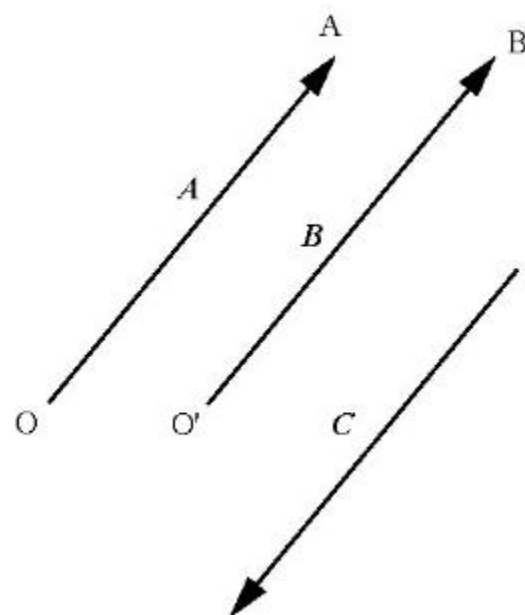


図8 一般座標系

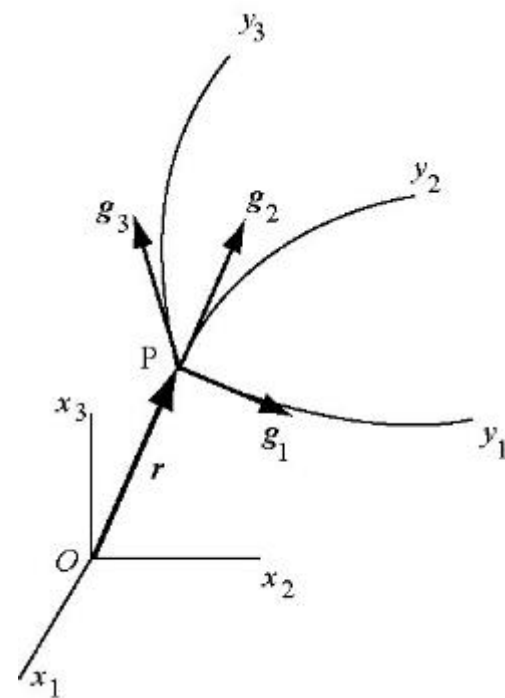
# ベクトルとテンソルの基礎的事項



$O - x_1, x_2, x_3$  座標系と  $O - x'_1, x'_2, x'_3$

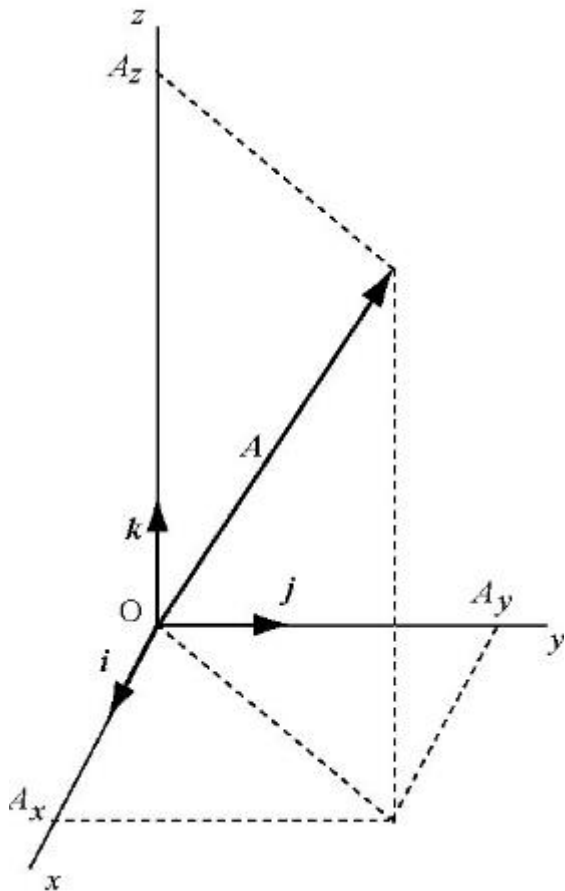


一般座標系

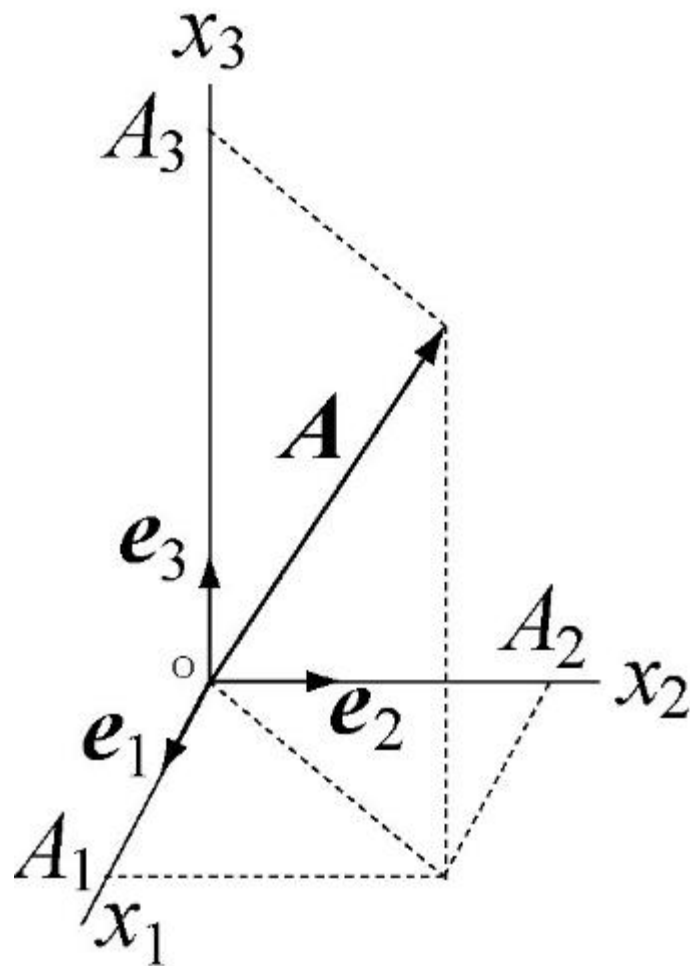




## ベクトルとテンソル：ベクトルの成分

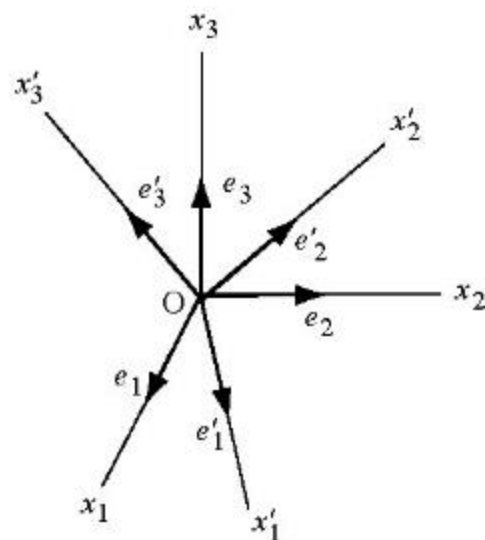


$$\mathbf{A} = A_x \mathbf{i} + A_y \mathbf{j} + A_z \mathbf{k}$$



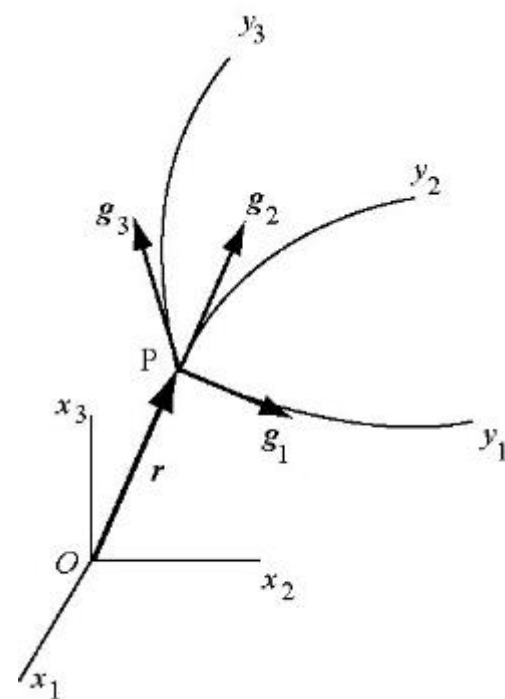
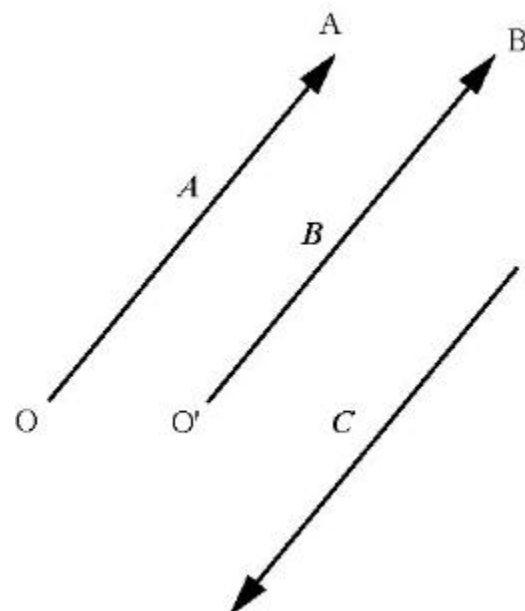
$$\begin{aligned} \mathbf{A} &= A_1 \mathbf{e}_1 + A_2 \mathbf{e}_2 + A_3 \mathbf{e}_3 \\ &= A_i \mathbf{e}_i \quad \text{総和規約} \end{aligned}$$

# ベクトルとテンソルの基礎的事項



$O - x_1, x_2, x_3$  座標系と  $O - x'_1, x'_2, x'_3$

一般座標系



# ベクトルとテンソルの基礎的事項

## テンソル

二階のテンソル (Second Order Tensor) は, ベクトルからベクトルへの一次変換 (Linear Transformation) の作用素 (オペレータ, Operator) として定義される.

$$\boldsymbol{v} = (\text{Second Order Tensor}) \cdot \boldsymbol{u}$$